

# 動植物シリーズ5

## 我が家周辺の

# 動物たち

浅野誠 2013年5月編集

私たちは、自然のなかに建てた家に住んでいる。隣は森。我が家も木々が多いので、半ば森のようなものだ。そのため、私達より先に住んでいる動物たちが多い。そんな動物たちと、日々出会っている。

これは、その動物たちとの出会いの物語だが、2007年から始めたブログに掲載したものを集約整理したものだ。本文中の年月日は、ブログに掲載した日だ。

私は動物について素人なので、文中の動物名は、私の推理で記入している。間違っているものがありそうだが、お許しいただきたい。

## 目次

1. 我が家周辺で暮らす動物たち	3				
2. 蝶	5				
おおごまだら	あさぎまだら	いしがけちょう	しろちょう	きちょう	
くろあげは	あおすじあげは	かばまだら、または、つばぐろひょうもん	つまべにちょう		
しろおびあげは	リュウキュウヒメジャノメ	うらなみしじみ	しじみちょう		
いもむし	蛾				
3. 昆虫（蝶以外）	18				
ななふし（ソーローウマ）	オオジョロウグモ	せみ	いわさきくさぜみ		
くわがた	ばった	やもり	かまきり		
かみきりむし	ホタル				
4. 鳥	28				
いそひよどり	はと	おーぼーとう（ずあかあおぼと）	めじろ		
すずめ	カワセミ	チドリ	サギ	猛禽類	
5. 水生動物	38				
アーマン	やどかり	かえる	グッピー		
6. その他	44				
マンゲース	おおこうもり	はぶ	山羊	猫	犬

# 1. 我が家周辺で暮らす動物たち

## 鳥が減る 台風後の鳥・動物

(2011年6月16日)

台風は、鳥や動物の生育環境も一変させた。木に巣がある鳥は深刻だろう。台風前と変わらないのは、イソヒヨドリとスズメ。コウモリやハトが激減している。メジロも見かけない。繁殖期だったのは、甚大は被害だろう。代わりに、というに変だが、日常見かけないカラスが出没することがある。

動物類も大変そうだ。家の周辺で、マンガースを2度見かけた。マンガースらしいすばしこい動きがない。ハブは見かけないが、近隣の方が一匹殺したという。

人間だけでなく、動物も受難の台風だ。

## 我が家「内外」の動物——ブログ記事の振り返り・再発見

(2010年9月9日)

我が家『内外』の動物には、印象的なものが多い。並べよう。

1) 蝶は、いつも何種類かが飛んでくる。我が庭の花が増えたからか。とくに、ブーゲンビリアとハイビスカスが、愛好されている。大型のアゲハが目につく。お陰で、シッサスの葉などは、芋虫にたくさん食べられる。オオゴマダラもしばしばみるが、庭のホウライカガミがまだ小さいので、庭に住みつくまでにはいたらない。

写真は、ホウライカガミ。



2) リュウキュウオオコウモリは、夏場はいつも見る。何枚かデジカメで撮った写真は、私にとっては貴重な写真撮影だ。

3) 我が家の先住者のイソヒヨドリとハトは、いつもいる。スズメもだ。

ブンタとユンタのカップルは健在。顔の判別ができないので、本当にそうかどうかどうだか自信がないが、行動様式から考えてそう思う。

住み始めたころ、鳴き声などはいいが、野菜を食べるので困らせたタイワンシロガシラは、依然として来訪するが、数は少なくなったと思う。

4) ワシ・タカの仲間の一羽は、しばしば我が家の南側道路の電柱の上に止まって、あたりを見渡している。『用心棒』のようだ。

5) メジロは多い。我が庭に数個の巣を作る。春には常時見られる。

ウグイスもよく聞き、見る。夏のホーホケキョは、依然としてなんとも言い難いものだが。

6) 蛇が激減した。ハブはここ3年見ていない。アカマタも、ここ2年みていない。ここに来た頃は、他の種類の蛇も見たが、ここ2年へび類に出会っていない。

7) ヤスデ、アリなどは、大変多い状態が続く。

8) ヤモリは、ずっと我が家にたくさん住み、虫を取り続けている。

我が家にすむクモの数は減った。

9) 畑のミミズはぐっと増えた。

10) 野良犬、野良猫は、依然として登場する。

11) 天然記念物アーマンは、変わらず生活し続けている。2006年5月のホームページ記事で紹介した3匹のヤド争いは最高のドラマだが、これほどのドラマは、その後見ていない。

12) マンゲースは、時々みかける。

## 2. 蝶



### オオゴマダラ幼虫

(2008年1月26日)

飼育している人からもらう。早速我が家のホウライカガミにはわせる。

※後日談 数日後には行方不明になってしまった。

### オオゴマダラ 我が家の庭で見つける(2008年7月16日)

今朝、ベランダからオオゴマダラが飛ぶのを見つける。 ゆうゆうと飛ぶ。

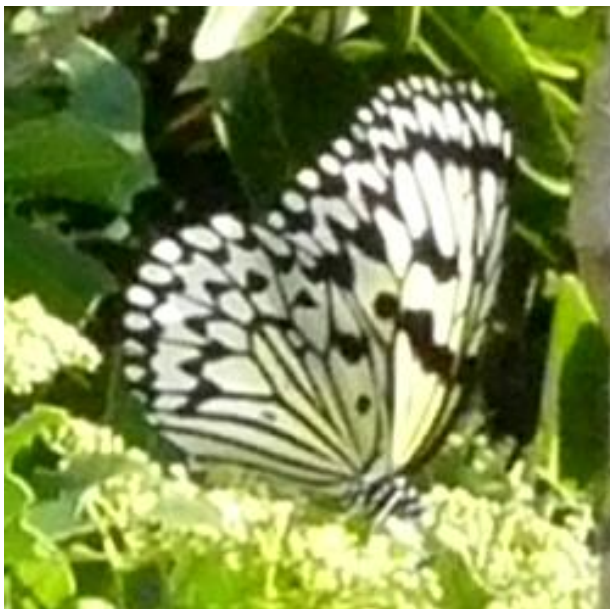
「ゆらゆら」といえなくもないが、「ゆうゆう」といった感じが似合う。

早速、庭において、我が家のホウライカガミを見る。オオゴマダラの食草だ。そこには食べたあともなかったの、近くから飛んできたものだろう。いつか我が家に定着してくれることを期待する。



### オオゴマダラ (2008年12月4日)

畑作業をしていると、目の前をオオゴマダラが飛ぶ。私からの距離20センチといったところ。オオゴマダラは、人も恐れず悠々と飛ぶ。



しかし、その時、ケータイもデジカメをもっていない。研究室に戻ると、隣の森のすぐ近くを飛んだり、とまったりしている。

そこで、早速デジカメで撮影。ズーム拡大しているの、鮮度はいまいちだが。

囲った網のなかの飼育しているオオゴマダラは容易にみられるが、自然のなかを自由に飛んでいるオオゴマダラを身近でみるのは、田舎暮らしならではの思う。

偶然だが、我が家のオオゴマダラの食草の手入れを昨日したところだった。



## アサギマダラまたはリュウキュウアサギマダラ

(2009年11月28日)

庭にて

## アサギマダラ

(2011年12月30日)

我が庭では、時々みかける。リュウキュウアサギマダラとアサギマダラがある。私は、両者の見分けがつかない。

ここに住み始めたころは、蝶にそれほど興味があつたわけではないが、最近になって、関心が増して、このブログでも10種類以上紹介しただろうか。





## イシガケチョウ

(2011年5月27日)

キバナタイワンレンギョウの蜜を吸っている。近づいても、私に気づかないかのように、じっとしている。

我が家では始めて気付く蝶だ。

図鑑をみると、『普段最もよく目にするチョウの一つです。』とある。私が気付かなかっただけだろう。

不思議な形だし、どちらが頭なのか、間違えやすい。逆に思ってしまう。

羽が傷ついたように、切れ込んでいるが、本によると、羽化した時から、そうなんだそうだ。

きれいなチョウだ。



このところ、アゲハ蝶を始め、たくさん  
のチョウが、晴れている時であれば、  
常時と言っていいほど、見かける。でも、  
写真にするのは難しい。そのなかにあっ  
て、こんなに簡単に撮影できたのは珍  
しい。



### シロチョウの仲間か？

(2011年8月10日)

我が家の窓のすぐ近くの、隣の森にたくさんの、この蝶が吸蜜している。



図鑑で調べるが、名前を特定できない。



## キチョウ (2012年1月3日)

よく見かけるが、動きが激しくて、撮影がなかなか難しい。

やっと成功したが、ピンボケ気味だ。大きさが2センチくらいで小さいから、ズームアップしているの、なおさらそうなる。



## サンダンカで蜜を吸うクロアゲハ(推定)

(2011年7月21日)

一杯花をつけているサンダンカを写していた。

ちょうどそこに、クロアゲハが飛んできた。

その前に、撮ろうとして、追っかけていたのだ。追っかけると撮れないが、偶然、あちらの方から飛び込んできた。





1秒後

クロアゲハであるかどうかは自信がない。  
 図鑑で一番にているものがクロアゲハだった。



### 名前不明のアゲハ蝶

(2011年7月27日)

サンダンカで吸蜜

図鑑で名前を探すと、クロアゲハ(オス)、モンキアゲハ、ジャコウアゲハの三つが候補。

どれだか、私にはわからない。

どなたか詳しい方、教えていただけませんか



アオスジアゲハ (2011年8月13日)

これまた、隣の森で吸蜜しているのを、ベランダから撮影。

「シロチョウの仲間」も吸蜜するが、アオスジアゲハが大きいからか、遠慮して避ける。



何羽も集まってくるが、同時に取るのは至難の業。これは、一羽のメスに複数のオスが求愛しているのだ、と図鑑には書いてある。



### 落ちたマンゴーの実に蝶がくる

(2011年6月2日)

200～300個ものマンゴーの実が台風で落ちてしまったが、チョウたちがやってきて、夢中に食している。ほとんどの種類の植物の花が、台風被害にあっており、我が庭・畑では、植えたばかりのテンニンカの花しか見当たらない。だから、マンゴーの実は貴重な食料だろう。

チョウは二匹が、争いもせず食べている。つがいかなと思ったが、そうではない。異なる種のような。

図鑑で調べるが、同定できない。片方は、カバマダラ、またはツバグロヒョウモン。

もう一羽は、裏と表では、まったく図柄が異なる。初めは、アオスジアゲハかと思ったが、違うようだ。





だれか、専門家に教えを請う必要がある。我が家はチョウの種類が多いのに、わかるのが少ないのは申し訳ない。

### ツマベニチョウ

(2011年8月7日)

ハイビスカスの吸蜜中

羽の角がベニになっていて、他のチョウとの区別がしやすく、私もここにきてすぐに名前を覚えた。

春からずっと、毎日のように見かける。



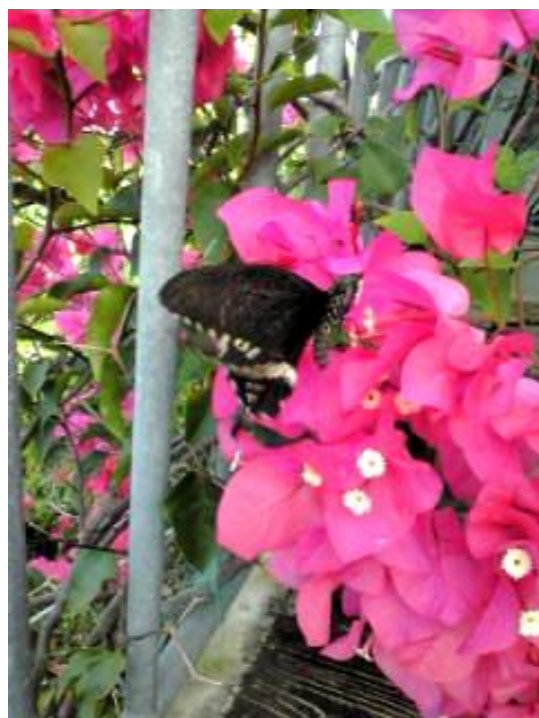
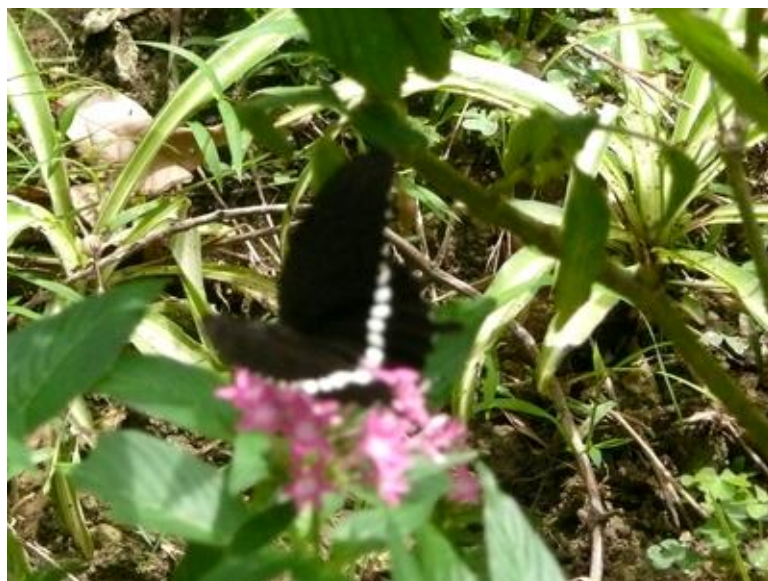
### シロオビアゲハのオス

(2011年7月24日)

我が家のアゲハで、もっとも多い。いつもと違っていいほど見ることができる。

ペンタスやハイビスカスの花が好きだ。

シロオビが目立つので、名前をすぐ覚えられた。



### ブーゲンビリアの蜜を吸うシロオビアゲハ

(2010年7月15日)

我が家ベランダにて

シロオビアゲハは毎日たくさん見る

### シロオビアゲハのメス、またはベニ モンアゲハ (2011年7月22日)

ペンタスで吸蜜する





図鑑で調べると、シロオビアゲハのメスは、ベニモンアゲハの擬態をするとのことで、両者は、私には区別がつかない。

## 交尾中のリュウキュウヒメジャノメ

(2010年3月18日)

我が家の庭にて。チョウの撮影は難しいが、交尾中なので、接近しても逃げない。

「沖縄の生きものたち」(新星出版)で名前を調べる。

よく見かける。



## ガジマルにとまる小さな蝶

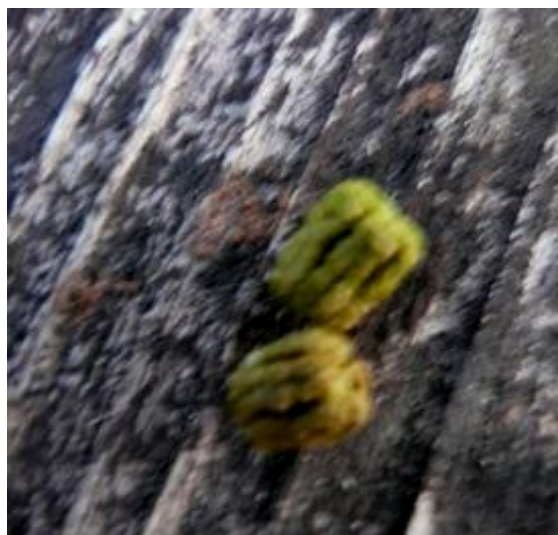
(2009年6月20日)

大きさは1センチ。接写のため、ケータイカメラを1センチの距離に近づけても逃げない。ベランダにて。

蝶の図鑑で調べるが、素人の私には名前を確定できない。「〜〜しじみ」であろうが。もう一つの図鑑を見たら、「うらなみしじみ」に似ていた。

## シジミチョウの仲間 (2011年8月2日)

1センチあるかないかの小さな蝶。日常的に飛んでいる。けど、名前を特定するのは難しい。ウラナミシジミである可能性が高いと思う。



## シッサスの葉を盛んに食べるいもむし二匹

(2011年7月5日)

ベランダのシッサスが元気よく伸びているはずなのに、葉が少ない。おかしいな、とみていると「糞」を発見。

いもむしだ。二匹も発見。

きっときれいなアゲハ蝶になるのだろう。

我が家は、アゲハ蝶が多い。







## さなぎ、蝶になることを期待してもむしを飼う

(2011年7月7日)

あんまりたくさんのもむしがシッサスを食べているものだから、いもむしを飼ってみることにした。この後、さなぎになって、蝶になるのを見たいと思う。30年前、家のカーテンで、蟬が羽化するのを、連続写真にしたことがある。そんな場面を想定する。

バケツに、シッサスを入れて、育てる。すごい食欲である。1日2回新しいのを入れる。常時食べている。今朝になって、鮮やかな緑色だったのが、茶色になり始め、食欲がおちてきた。さなぎになるのかな、と推理。こんな子どもじみたことを夫婦でやっている日々だ。

## いもむし、さなぎになる

(2011年7月10日)

飼育観察中のいもむしが5匹ともさなぎになった。数日前、5匹のいもむしがいたが、3匹が消えた。どこかに逃げて消えたのだろうと、その時は思った。しかし、すでにさなぎになっていたのだ。葉に隠れて気づかなかったのだ。

久米島旅行前に、食事用の葉を与えてでかけたが、それも食わずに、さなぎになっていた。

次は、羽化を待つのみ。

久米島で、ホタレンジャーの子どもたちと出

会った。同じことを私たちはしている。私が小学生の時は、虫は好きでなく、こんなことはそれほど好きではなかった。この歳になって、興味をもつとは不思議なことだ。



## さなぎから孵ったのは、蝶ではなくて蛾だった

(2011年7月20日)

シッサスをよく食べる幼虫を、室内で育てたらさなぎになり、どんな美しい蝶が出てくるかと待ち焦がれていた。

今朝、さなぎから出ていた。室内の壁と天井に境目に、2羽のガを発見。

少々ショック。あと2羽もやがて、ガになってあらわれそうだ。

### 3. 昆虫（蝶以外）

#### ナナフシ=ソーローウマ

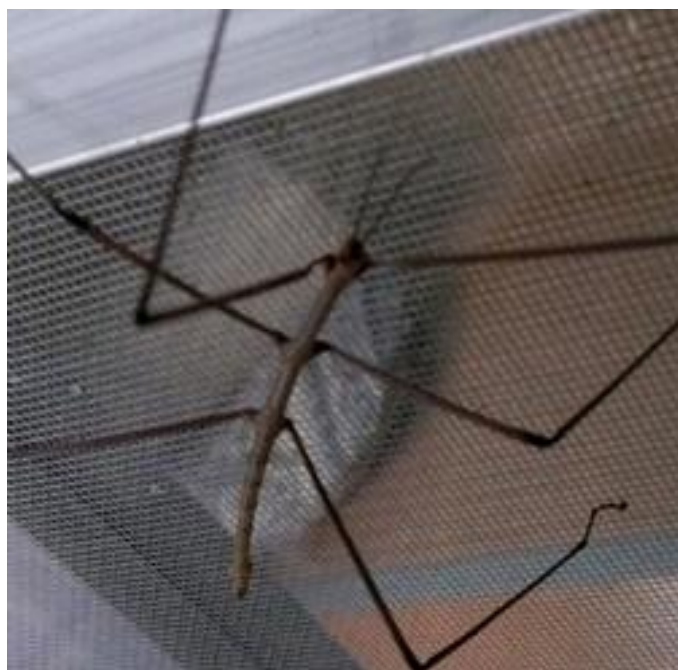
（2012年7月31日）

網戸にナナフシがじっとしているのを発見。ナナフシが木の枝にいる時は、小枝のような形をしているので、発見



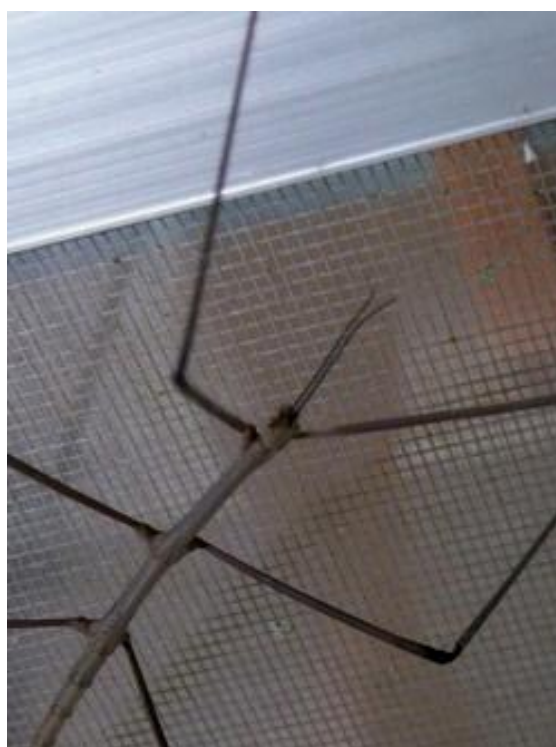
は難しい。今回は、網戸でじっとしたまま。朝発見して夕方まで移動しなかった。暗くなったころ、やっとどこかへ移動した。

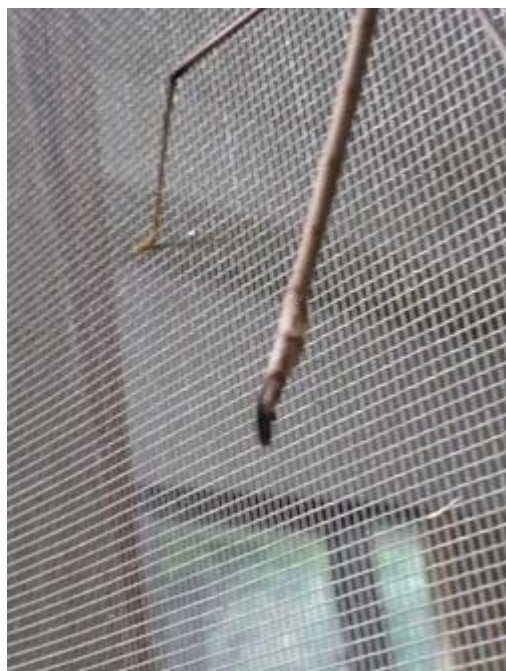
こうやって、餌を待ちかまえているのだろうか。私が接写した際だけ、「警戒体制」で、動いた。



※ 元の写真に、コントラストを強めにかけて、気づきやすくしてある。そうしないと、わかりづらい。客人は気づかずにいることが多く、教えてあげると驚くと言うのが、普通だ。

どっちが頭で、どっちが尻かわからなかったが、動いた時によく分かった。右の写真が頭。頭の先には、触覚なのだろうか、二本の長いものがある。





左の写真が、尾だ。

(実は、腹だった)

右の写真が胴体。まるで小枝だ。

——と書いたが、屋比久壮実著「いちむし」(アクアコーラル企画 2008年)と照合してみたら、間違いを発見。尾と書いた部分は、腹。



## ななふし ソーローウマ

(2010年12月9日)

画面いっぱいに虫がいるのがわかるでしょうか。ウリズン豆の収穫整理をしていて、過剰接近してしまいました。かすかに動くので、やっと気付いた。

屋比久壮実「いちむし」(アクアコーラル企画 2008年)によると、沖縄語では、ソーローンマという。「木の枝のような形をし、木に擬態する」と書かれている。

まさにその通りで、私も枝と間違えてしまった。動作がとてものろいから、擬態が必要だろう。なんとなく、気味が悪くもあり、かわいくもあり、といった感じだ。



## オオジョロウグモがヤモリを食べる

(2012年7月7日)

写真は、オオジョロウグモがヤモリを食べているシーン。

自分の体と同じ大きさのヤモリを食べている。朝撮った写真だが、午後も食べ続けている。

我が庭・畑には、たくさんのオオジョロウグモが住んでいる。写真のものより2倍以上も大きく、

20センチ近くのものもいる。気づかずに近づいて、ビクッとすることもある。



メスに対して、オスはとても小さい。しかも、同じ巣に数匹いる。交尾の後、メスの食べられるという悲劇があるとか。超ズームアップした右写真の画面中央は、オスだ。ちょっと赤みがかっている。



## オオジョロウグモが畑に (2009年10月26日)

本体4センチ、手足合わせて12センチ。十日前から我が家畑中央に大きく網を張る。台風をものともしない。同じ場所で頑張っている。

最初は、大きさにドキッとするが、慣れると、大きさに合わせた動きを観察することにも興味を感じ始める。

セミ ベランダのブーゲンビリアに  
アに (2010年7月14日)

あちこちでうるさい。

おしっこをひっかけられること、しばしば。

今年は、大合唱が遅かった。長雨続きのせいだろう。



セミ ベランダのブーゲンビリアで激しく鳴く

(2011年7月8日)

夏本番。

今年は気候が変で、初鳴きが6月後半と遅かったが、ベランダでも鳴く。



### 体長2cmのセミ 何でしょうか

(2007年5月16日)

15日朝、玄関脇の鉢のオリズランの細い葉にセミがとまっているのを見つけた。体長2cmで幅は3~4mmである。羽化したばかりか、じっと動かない。

こんな小さなセミを、私は見たことがない。知っている方教えてください。

今朝は、付近でいくつものセミの鳴き声が聞こえた。夏を感じである。今日梅雨入りか、という沖縄である。

※ 後に、イワサキクサゼミであることを専門家に教えていただく。

### クワガタ 台風1号の犠牲者

(2011年5月12日)

我が家の駐車場の隅。風で飛ばされたのだろうか。

ここでは、はじめてクワガタを見た。



### バッタが室内で脱皮 (2010年10月17日)

右側が抜け殻。脱皮直後のためか、動かない

**寒くて動かないバッタ** (2009年12月2日)

12月に入って冬らしくなる。

我が家玄関橋の手すりでじっとしている。3センチの距離からの接写だが、足をかすかに動かすぐらい。

全長5センチ

**バッタ**

(2009年11月6日)

我が家のパッションフルーツの木を住居にしている。一週間以上、同じ場所にいる。撮影中もほとんど動かない。

「撮影してほしいのかな」と勝手に思う。

**ガを捕えたヤモリ**

(2009年9月1日)

夜、部屋の電灯に集まってくる虫を求めて数匹のヤモリが集まる。

時にはヤモリ同士の戦いもある。

写真はガを捕らえたばかりのヤモリだ





### 獲物を狙うヤモリ君

(2010年9月2日)

我が家玄関。ここは格好の観察場所。

数匹で獲物を奪い合うシーンもしばしばだ

### 切れたしっぽが伸び始めたヤモリ

(2010年6月19日)

庭への階段の手すりの上。何かに食いちぎられたシッポが復活してきたのだろう。復活箇所は黒っぽい。

「もう少し伸びたいな」と言いたそうだ。



### ヤモリ三匹

(2007年9月18日)

我が家の窓には、夜8時近くなると、ヤモリが集合する。明かりに引き寄せられて、虫が集まる。それをねらってヤモリも集合。写真は、森に隣接する東側の窓の網戸に集まったヤモリたちである。

虫をめぐるの激しい争いを目撃することもある。我が家のヤモリの密度は高そうだ。すぐ隣が森なので、虫の生育条件がよいのが、ヤモリの繁殖を支えているようだ。



## ヤモリの卵

(2007年9月16日)

我が家は、ヤモリの天国。

この卵、観察のため、現在保護中。どんな風に殻を破って動きだすか。楽しみにしている。



## ヤモリ誕生

(2007年10月17日)

9月16日の記事に「ヤモリの卵」を掲載したが、一カ月たって、二匹の誕生を確認。元気よく飛び回っている。早速撮影した後、外に放した。

まさにかわいい。こんな風を書いたら、ヤモリが嫌いな人には、嫌われるかもしれないが。





### 茶色のカマキリ

(2009年9月24日)

ベランダの千年木に。

体長5センチ。

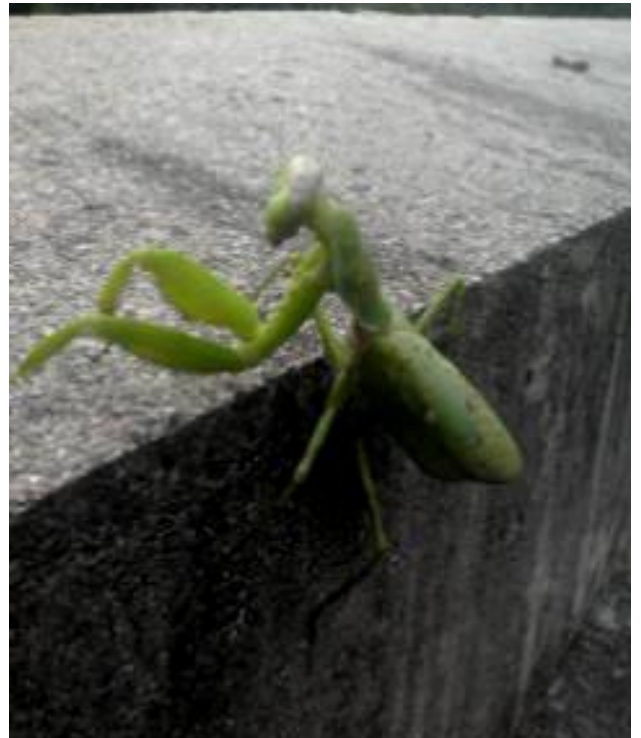
まだ子どもだろう。

### カマキリとニアミス (2010年7月10日)

なぜか、屋上に。

屋上には、ドラゴンフルーツのポットが10余りあるだけ。

我が家にはいろんな生き物が生活している。



### 家のなかにカマキリの赤ちゃん

(2009年10月14日)

体長7センチ。玄関に。

最近、室内でよく見かける。室内でも、食糧があるのだろう。

## カミキリムシ? (2009年12月5日)

ベランダのブーゲンビリアにとまって、じっと動かない。昨日からだ。

名前を知ろうとおもって、図鑑を探す。昆虫にはまったく疎い私には難しい。

でも一番近いのは、屋比久壮実『いちむし』のなかのカミキリムシ（カラジクエー）だ。

この仲間が一番大きいオオシマゴマダラカミキリは体長4cm近くとあるが、写真のものは、4cmは越えそうだ。

これが柑橘類を食べるとの話は、先日の字共同作業でも聞いた。かつて中山は柑橘類が多かったが、カミキリムシにやられてしまったとのこと。



## 夜の海岸散歩——ホタルに出会う

(2008年5月27日)

8時すぎ、恵美子が散歩にいこうという。懐中電灯をもちながら、いつものコースへ。海岸では二人で歌を歌う。

帰り道、海岸から30メートルくらいのところで、ホタルを発見。一匹だけだが、小さな光を放って、草にとまっている。私たちが見ていたせいか、飛び立ち、舞う。

ここに移住してきて、ホタルに出会うのははじめてだ。いつか群舞するのをみたいものだ。

## ホタル 琉球新報副読誌「レキオ」

(2008年6月26日)

木曜日に琉球新報の付録の「レキオ」が配達される。時々読む。月一回、恵美子が「子育て・親育て」を連載しているので、最近、関心が一層深くなった。

今日の「レキオ」には、沖縄本島のホタルのことが書かれている。知らないことだらけだった。

- 1) 水辺に住むとは限らない、ということ
  - 2) 灯があるといなくなる、ということ
  - 3) 沖縄本島で人目につくのは、クロイワボタルとオキナワスジボタルの2種類、ということ
- また、近所でみられることを願っている。

## 4. 鳥

### イソヒヨドリが我が家に巣作り

(2007年4月9日)

ここ数日の我が家の最大関心事の一つ。イソヒヨドリの夫婦が、洗濯物干場に巣作りをはじめた。巣作り用の枯れた枝葉などを運んできている。運んできたとき、私たちとよく鉢合わせした。このあたりの先住民である。いつもみかける。このあたりにはよくあることで、隣家ではかわいいニックネームまでつけている。

はじめは困ったので、私達は巣づくり材料を戸外に捨てた。それでも粘り強く運んでくる。そこで、物干場を別のところに移し、かれらの巣作りを保障することにした。余り汚さないように、ということと、巣作りを援助するつもりで、植木鉢で、巣箱めいたものを二つセットした。どちらかを使ってくれればと願ってのことだ。

かれらの段取りは、まず巣の素材を集めることから始めるらしい。再びせっせと素材を物干場の床に置いている。私が用意した植木鉢を活用するかどうかは、まだわからない。

### 我が家の先住者イソヒヨドリさんを「ブンタ」「ユンタ」と命名 (2007年4月19日)

我が家に移住してきた当初からイソヒヨドリカップルがいる。移住してきた私達を窓の外から観察したり、家のなかに入ってきて飛びまわったりしていた。

最近、物干場に巣作りをはじめている。この巣作り作戦は、しばらく前にも書いたが、その後どんどん資材をためこんでいる。だが、本格的に巣の形にはしていない。昨日の豪雨がかれらを悩ましているのか。

隣家にならって、私達も、いろいろと考えた結果、「ブンタ」と「ユンタ」と命名することにした。かれらはいつもいっしょに仕事・生活している。我が家のベランダの両袖にコンクリート壁があるのだが、その先端に二羽がとまって会話をしながら、周囲を観察していることが多い。とても仲がいい。ずっとここで生活していくことだろう。

### イソヒヨドリ「ユンタ」

(2007年4月29日)

「ブンタ」とカップルです。もうすぐ産卵と予想？ 期待？しています。



イソヒヨドリの子育て(2008年5月22日)

ベランダの手すりでヒヨドリ二羽が騒がしい。一羽はきちんと美しく鳴くが、もう一羽はジージージーととっても下手だ。さては、親子だなと気づく。しかし、体格は親子が同じ。そして親が子どもに餌を口移しにしている。この光景をみるのは、今日で2回目。

今日梅雨入り。雨の前にとにかく、鳥たちがしきりに鳴く。ウグイスがいまもホーホケキョをしていた。



イソヒヨドリ 上写真 (2008年10月4日)

家の中に入り込んだので記念撮影。美しいオス。昨年ブンタと名付けた彼だろう。撮影後放すと元気よく庭へ。



上写真

イソヒヨドリ (2009年4月8日)

鳥が活発な季節。我が家の先住民ブンタ君だろうと思う。

イソヒヨドリのユンタが水浴びの後、

羽をふるわせる (2010年5月15日)

ユンタとブンタは、雨なのに、ベランダの水たまりで、水浴び。





## イソヒヨドリ (2010年5月15日)

ベランダで虫を食事中

## ハトがベランダで交尾

(2007年6月25日)

今朝8時ころ、朝食中に外の景観を眺めていると、ハトのつがいベランダの手すりまで近寄ってくる。くちばしをお互いにつつきあう動作を一分間ぐらいする。激しいキッスのような感じ。そして、交尾する。ほんの数秒。その後、各自、羽繕いを数分間。大変景観がいい場所で「堂々」たる交尾である。

4、5月に盛んに巣作りをしていたイソヒヨドリのブンタ・ユンタカップルはこのごろ影が薄くなっている。結果的に我が家では巣作りは成功しなかったようだ。時々みかけるが。

そして、コウモリを盛んにみかける。近くの人の話だと、数年前、隣地のウスク（アコウ）の木に百羽近くもがぶらさがっていたという。そのコウモリのつがいの写真を掲載した（P45）が、まもなく子連れで飛ぶだろうと専門家の話。

テレビで、18年間もツバメが巣作りをしている家の話をしていたが、我が家もそれに近いようになるのだろうか。

## 我が家に鳩の巣と卵が

(2008年8月23日)

私の書斎から屋上にあがる外階段の裏側の真っ暗なところを、ハトがしばしば行ったり来たりしている。なぜかな、と思っていると、ほんとうに奥まったところに、卵を二つ発見。

イソヒヨドリは、派手にふるまうので、巣作りはすぐに気がついてきたが、ハトははじめて気づいた。うまく孵ってくれることを期待する。



### ズアカアオバト=オーボートゥ

(2009年12月9日)

緑の鳩

余り見かけないので、図鑑で調べる

アカギの実を食べている

### オーボートゥ=ズアカアオバト

(2012年2月18日)

上の写真は、不鮮明だが、今回は、我が家ベランダから20メートルぐらいの距離の木で、若芽を食べているところをズームアップして撮影できた。



屋比久壮実『いちむし』(アクアコーラル企画2008年)には、「沖縄には渡り鳥としてやってくるハトで、桜の花が咲く頃よく見られます」とある。

写真は、2月10日ごろ撮影

### メジロ マンゴー

(2009年4月16日)

ついに写真撮影成功

このところ、我が家のマンゴーに、メジロやウグイスが、しきりにくる。

ケータイでの撮影をこころみだが、うまくうつらない。

デジカメのズームで、ついに成功。マンゴーの大きさは、3～4センチ



### つがいメジロとマンゴー

(2009年5月10日)







鳥たちも繁殖の時期。元気よくとびまわっている。

つがいのメジロが、我が畑のマンゴーにとまっている。

互いにいたわりあっている雰囲気。

デジカメのズームで撮影に成功。

距離は直線にして10メートルくらいか。

マンゴーは、長さでいうと、10cm近くになっている。

4月中旬に掲載した写真と比較してみると、マンゴーの成長具合がわかる。



## メジロの巣

(2009年6月8日)

レイシの枝に。高さ3メートルのところ。

危なくて、中はのぞけない。

周りをメジロ(複数)が警戒の鳴き声をたてながら飛ぶので、卵がいるかもしれない



## ブーゲンビリアにめじろの巣

(2011年5月8日)

この1週間の雨で、ブーゲンビリアの花はすっかり落ちた。

これを機に、大胆な剪定をした。年に2, 3回する。高さ4メートルまでは、脚立・長いはさみで何とか切れる。7メートル以上は、3階ベランダから切ることになる。

切った枝を整理していると、メジロの巣が出てきた。もう使用済みのものだ。

毎年、庭・畑のどこかに巣を作るが、建物にくっついて伸びるブーゲンビリアに作るのは初めてだ。

めじろ家族は、今はいない。山の方に行ったのだろうか。でも、年の半分ぐらいは、我が家に顔を見せる。

## 室内に入ってしまった、なかなか出ていけない雀

(2009年9月28日)

雀二羽が隙間から室内に入って出ていけず、バタバタしている。

こんなことは、ここに来てからしばしばあった。イソヒヨドリが多い。そこで、蚊などの虫よけのためだけでなく、鳥よけとして、昼間でも網戸を締めることにしている。

今日、どこから入ったか不明だが、入ってきた。そこで網戸を開けた。出ていったと思ったが、外から雀が室内をのぞく光景が見られた。変だなと思っていると、まだ一羽のこっている。もう一度網戸を開けて誘導し、出ていかせた。先ほどの外からのぞいていたのは、親だなと思う。

自然の中、とくに森のなかに住むと、こんな類の出来事はしばしばだ。

## 鳥が、餌の虫を求めて、植木鉢をかきまわす 千年木の花を食べる

(2011年1月13日)

このところの寒さで、餌の昆虫が飛ばないためか、鳥たちが飢えているのだろう。植木鉢、堆肥、いろいろなところで、虫がいそうなところをひっかきまわしている。ミミズ等を探しているのだと思う。

ともかく異常な寒さだ。12日には南城市が10度以下になった。こんな寒い年を、私は知らない。

さらに、今朝、ベランダの千年木の花を食べているのを見てしまった。初めて見る。それほど食料不足なのだろう



## 鳥の卵発見

(2008年5月1日)

何の卵か。このままで無事孵るだろうか

海岸の砂浜で出会う。

## カワセミ チドリ サギ タカ 元日の中山海岸 (2012年1月1日)

雲が出て、初日の出は無理だった。午前中、海岸散歩。

いろいろな鳥に出会う。ここでカワセミに出会うのは初体験。

4種のみ掲載する。

**カワセミ** 私たちのすぐそばを流れる小川の海への出口の排水溝で撮影。



**チドリ** 海岸で撮影 いつも見かけるので、図鑑で調べるが、正確な名を特定するのは、素人の私には無理。

**サギ** 海岸で撮影。これまた、正確な名ははっきりしない。

黒いサギと、テリトリー争いになることもある。





### 空飛ぶ鷹の仲間

空を旋回しながら、餌を探しているのか。カップルで飛ぶのも見る。

写真は、海から陸へ飛び、防風林のモクマオウの上あたり。

元日から、鳥をこんなに撮影できるとは、幸せな2012年スタートだ。

## すずめ いそひよどり ウグイス しじゅうから？ 猛禽類 (2013年3月25日)

鳥がとても目立つ季節だ。いくつかの話題。

**すずめ** 近所の方との会話「このごろ、すずめを見かけないね」 近隣に、時期を選ばずいるのがすずめだが、確かに、最近見かけない。と思ったら、現れた。ベランダのいつもの場にあらわれたのを、私の部屋から撮影。



**いそひよどり** これもいつも居る。我が家の先住者だ。23日、短時間、窓を開けておいたら、入ってきて、出口を求めてさまよう。私の部屋で撮影。撮影終了後、お帰り。写真撮影！に来られたのかな。

**うぐいす** このごろ、よくおでましたが、写真撮影まではいかない。鳴き声もいい。

めじろ これも、いつもいる。

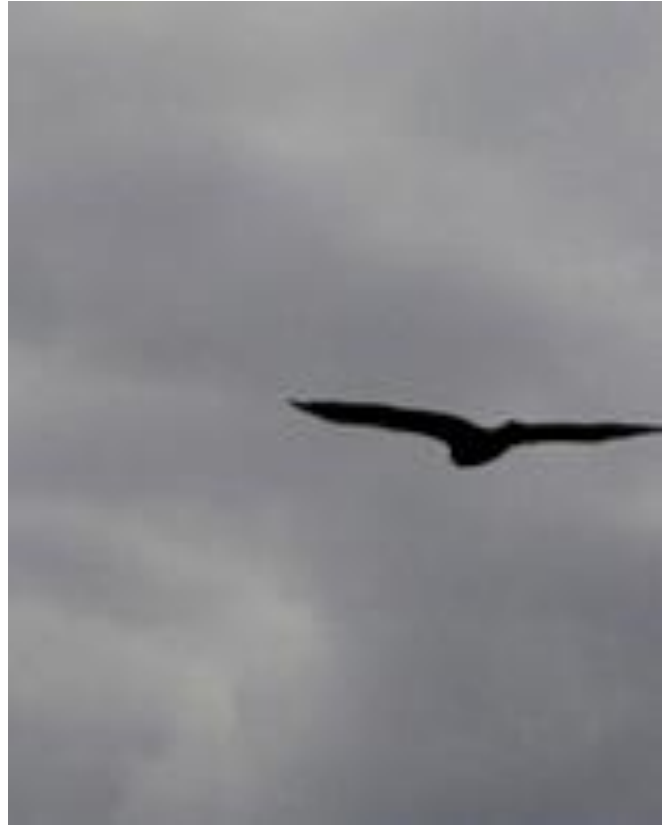
シジュウカラ？ あまり見かけない鳥なので、鳥類図鑑で調べたら、シジュウカラが一番近い。野鳥の名前は難しい。

たいわんしろがしら 野菜や果物をすぐ食べるので、嫌われる。

右写真

大空をゆうゆうと舞い、地上の餌をさがすのは、**猛禽類**。だが、名前まではわからない。2月末の撮影。

他に、鳥ではないが、おおこうもり。通常は、夕方以降見かけるが、最近は食糧難のためか、昼間から見かける。



## 5. 水生動物

アーマン（オカヤドカリ）が海へ（2009年7月19日）

産卵のためだろう。海水まであと5メートル



アーマン（オカヤドカリ）

（2010年6月1日）

庭への階段で。自然のなかの我が家では、よく出会う。

れっきとした天然記念物だ。殻だけで5～10センチある。

写真中央で、小さな目が光っている。かわいらしいが、不気味でもある。



今日も出会うアーマン（オカヤドカリ）

（2010年7月8日）

最近、アーマンによく出会う。これは我が家の通路脇。一昨日は、国道で。動きが激しい季節だ。

無事を祈る。



### アーマン＝オカヤドカリの季節 (2012年7月28日)

毎年、6月ごろから我が敷地内のアーマンの動きが活発になり、週に何度も見かける。我が家は、海岸から直線距離にして、300メートルぐらいの半ば森状態だから住みやすいのか、何匹なのかわからないが、とにかくたくさん住んでいる。

右は、大人のアーマン



左と次ページ最初の写真は、小さすぎる殻がとれてしまった子どもアーマン。

アーマンを初めてみる我が家訪問者が珍しそうに見つけた。適切な大きさの殻が見つけられなくて、苦労しているようだ。早々にいい殻が見つかりそうな所へ帰してやった。



左は若者クラスのアーマン

このアーマンは、天然記念物なのだ。我が家の守り神の役割を果たしてしてくれるのかな、と思う。

## ヤドカリの大群

(2011年6月27日)

ヤドカリとしては大型で、3センチぐらいあるだろうか。

24日、民泊高校生とでかけた奥武島海岸で、出会ったヤドカリたち。







ここは、いつもこんなにたくさんのヤドカリたちに出会う。

高校生たちも、大いに興奮

## 台風避難先に困った？ 巨大カエル ベランダ千年木に登る

(2012年10月1日)

今朝、ベランダの千年木に、胴長8~10センチのカエルが、千年木の葉っぱのなかにいるのを発見。ヒ



キガエルほどではないが、青カエルでこんな大きいのを見るのは初体験。

どこから来たのか。このベランダは、地上7~10メートルの高さ。台風の風でとばされたのか。それともよじ登ってきたのか。

朝7時前に発見してから、11時過ぎまでまったく動かない。そこで、地上に戻してあげようとしたら、大量のおしっこをひっかけられた。カエルは、コンクリート壁につかまる。



しばらくして見ると、再び千年木の幹につかまっている。ようやく、12時過ぎにどこかへといった。行く先は不明。

この千年木は、写真のように、台風で半分が倒された。起こして、ちぎれた葉っぱはカットした。そこにカエルが来たというわけだ。



## 我が池に大量のカエルの卵とオタマジャクシの氾濫

(2013年3月26日)

1月に、らせん型ハーブ園の脇に作った池だが、グッピー、そして後から入れたプラティの専用のもりだった。

しかし、異変が起こった。

最初何だかわからなかったが、しばらくして、蛙の卵であることが判明。やがてオタマジャクシの誕生。

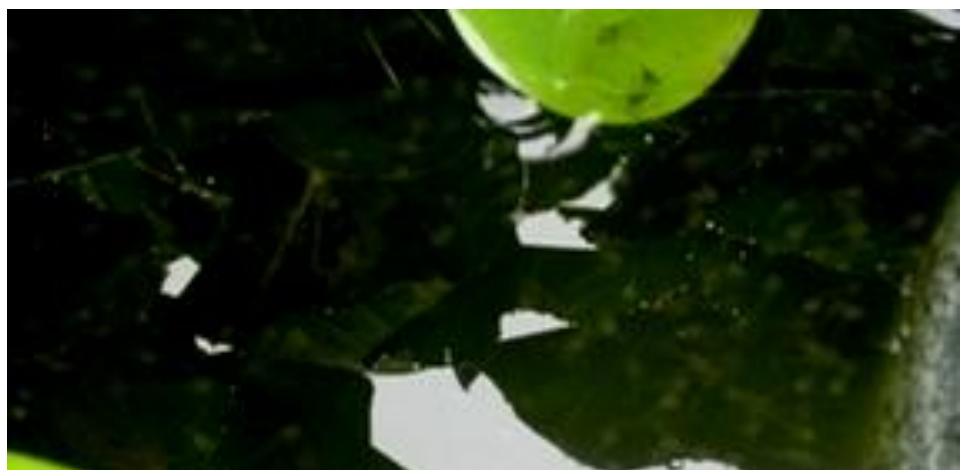
さらにしばらくして、新しい卵が生みつけられる。先のものとは異なる種だ。

かくして、現在は、グッピー、そして大オタマジャクシのグループと小オタマジャクシのグループ。プラティは生存不明だ。

途中、鳥や猫に襲われる事もあったが、現在金網をかぶせたので、その心配は激減。

しかし、オタマジャクシに占領された感じだ。

さてこの後はどうなっていくのだろうか。



## グッピー 死と生

(2010年10月22日)

我が家のグッピー。以前に何度か話題にしてきた。私はメダカだと思っていたが、そういうことに詳しい息子が、これはグッピーだという。

いずれにせよ、ずっと飼いつけている。

最近の話題。

その1) フィンランド長期滞在中、餌なしにもめげずに生き続けた。

その2) 水槽に加えて、玄関脇の屋外のかめでも育ててきた。かめのものが、数か月ぐらいのうちにいなくなることがある。9月に数匹、水槽から移した。

しかし、この大雨の時期、すべて死んだ。原因不明。雨のせいかどうかもわからない。

その3) 水槽に、赤ちゃんを4匹発見。1センチにも満たない。スイレンの葉の上でじっとしている。昨夜か今朝誕生したようだ。写真はそのうちの2匹。

※ 後日談 その後、玄関脇のかめでは、グッピーが元気良く生活している。



## 6. その他

### ついにマングース撮影成功 我が家入り口近くで

(2012年11月16日)

我が家周辺ではマングースをよく見かける。

台風襲来ラッシュの昨年以來、とくに多い。台風で森が荒らされて餌が少なくなったためか。

我が庭・畑にも頻繁に現れる。以前より動きがゆったりしている。春だったか、読書中の私の近くの庭を通る



マングースが立ちあがって、窓ガラス越しにじっと私を見つめる。数秒間。それ以前は、すばやく通り過ぎていたのだが。

それでも、写真を撮るまで、待っていてはくれない。

ところが、今回、我が家入口の駐車場付近に、1～2分間滞在した。食糧探しなのだろうか。見晴らしのきくこんな場所にかかなりの時間滞在するのを見るのは初めて

だ。カメラを取りに行き、撮影しても気づかない。室内からガラス窓越しの撮影だから、こちらを気にしていないのだろう。

かなりズームアップした写真なので、ボケ気味だが、やむをえない。私が見かけるマングースの中では大きい方だ。50センチ以上ある。これまでよく出会ったものは30～50センチほどだった。

### オオコウモリ 庭のパパイヤを食べる

(2007年7月17日)

つい先程、庭のパパイヤをオオコウモリカップルが食べているのをみる。写真撮影を試みるが、うまく写らない。

この台風でも、我が家のパパイヤは倒れなかった。この半年余り、連日のように食べている。コウモリが食べているパパイヤは、自然に発芽したものだが、堆肥をやったこともあろうか、立派に成長し、今や3メートル近

くなる。木々にはさまれているためか、台風でも倒れなかった。最近は、果物としてもおいしく食べている。

これまでコウモリが食べているのを目撃してこなかったが、食した跡はあった。台風直後で食料不足のためか、私達が見ていてもすぐには逃げなかった。写真撮影のために、二人で近寄ったら逃げたが、そのままにしていたら、また戻ってきた。

多分もうすぐ子どもを産むのではないか、それとももう産んでいて、どこかに子どもを置いているのだろうか。

## オオコウモリ カップル

(2007年6月17日)

6月に入ると、夕方隣の森が騒々しくなる。リュウキュウオオコウモリがたくさん集まってくるからである。



飛んでいると、1mの大きさである。

3階ベランダから写真にとろうとするが、なかなか難しい。20枚とって、この写真ぐらいしか「まとも」にとれているものはない。原写真をかなり拡大したので、少々ボケているが。飛んでいるときなど、画面にすらキャッチできないのがほとんどである。私からの距離は数mしかないが。

## おおこうもり

(2009年9月30日)

夏の夕方のいつもの光景はじめての人はびっくりする。

隣の森のいつもの木にぶら下がっている。

ともかくでかい。1メートル





## リュウキュウオオコウモリ

(2009年6月20日)

我が家の隣の森の住人

なかなか写真撮影が難しいが、これまでになくうまく行く。



この時期は、カップルの時期



このこうもりは大きい。羽を広げると1メートルをはるかにこす。

別名フルーツコウモリといい、パイナップル、レイシ、マンゴーなども食べるので、少々困るが。

しかし、とてもかわいい顔をした愛すべき動物だ。

## 電線にとまるコウモリ

(2012年10月7日)

いつもなら、隣の森の大木にとまるのだが、台風にやられて、とまれないのか、電線にとまる。

動物たちも大変だ。

散歩帰りに、出くわしたため、携帯写真だ。



## へびの死因は、鳥防除網にかかったこと

(2008年6月12日)

野菜を鳥から守るための網をマンゴーの木の下に一時的に置いておいたのだが、それにへびがひっかかって出られなくなり死去したようだ。こんなこともあるものだと不思議な気分である。体長は80~100cmである。

恐らくアカマタだ。

気持ち悪いので、写真にはしなかった。

## ハブ取り用刺し網

(2011年5月14日)

先週、沖縄タイムスに刺し網がハブ対策に有効という記事があり、希望者に無料で送ると書いてあった。ハブセンターの関係者が書かれたものだった。

早速、連絡をとったら、すぐに送られてきた。

すぐに設置した。

右の写真が設置したもの。

説明書に、ウェブ・アドレス (<http://snakehabu.web.fc2.com/>) が書いて

あり、詳しくは、それを見るように書いてある。実に詳しい。

その中に、送付された刺し網は魚用だが、鳥網でも取れると書いてあった。



この前の記事のように、2、3年前、野菜を食べる鳥対策用に購入した防鳥網を、マンゴーの樹の根元に一時的に置いておいたが、それにアカマタが引っ掛かって死んでいたことを思い出した。

そこで早速、送付された魚用と、持っていた鳥用の双方を、説明書・ウェブサイトの説明をもとに設置した。至って簡単だ。左の写真は、鳥用のもの。さて、どうなるだろうか。

もし、「ハブが1匹捕れれば、周辺の住民や知人に宣伝して下さい。ハブが2匹捕れれば、マスコミに情報を知らせ、記事にしてもらって下さい」と書いてあった。

## 散歩の帰り道、山羊に会う

(2008年6月7日)

奥武島入り口。もずくそば「くんなとう」隣







### 野良猫の赤ちゃん

(2009年9月18日)

我が家近辺には野良猫が多い。写真は我が家の床下光景だ。おそらくだれかが捨てた猫たち、あるいはその子孫だろう。

先月、孫たちと海岸に散歩した折、子猫が私たちについてきたことがあった。今回は、身近だ。写真には三匹の子猫が写っているが、すぐ近くに母猫がいて、私を威嚇している。彼らの行く末はいかに？

近隣で飼っている家は聞かない。自然豊なところなので、ネズミなど自然のものを食べているのだろう。また、小動物が多いところなので、いろいろなことがあるだろう。

\*\*\*\*\*

夕方追記 先ほど、見に行ったら、どこかに移動していた。人に見つかったためだろう。

### 迷犬？ 捨て犬？ 野犬？

(2011年1月15日)

近所の畑の農具の上に眠る二匹。昨日は一匹だったが、今日は二匹。 近くにいったら起き出した。この近辺に捨て犬は多い。まさに近所迷惑。飼い主の方、きちんと管理して下さい。

